

廃棄ニンジンを加工品にするプロジェクトを浅野健司市長に説明する林亮輔さん(右)＝各務原市役所



規格外ニンジンで加工品作りたい

県内最大のニンジン産地各務原市で、特産の「各務原ニンジン」の規格外品や傷物を捨てずにドレッシングなどの加工品として売り出そうと、農業生産法人フォレストファーム(同市鵜沼古市場町)を経営する林亮輔さん(33)が4月、インターネットで資金を集めるクラウドファンディングに乗り出す。各務原ニンジンを地域活性化の核として余すことなく使つとともに、多くの出資者を巻き込んで各務原ニンジンをPRしたいと考えて。「生産地を元気にして、地域とのつながりもつくっていききたい」と意気込んでいる。フォレストファームは昨

農業生産法人 目標額は50万円

「各務原に元気」 ネット出資求ム

年、約4畝の農地で約130トンを収穫したが、シミなどが出る規格外品が約15%、割れてしまつた廃棄品が約10%出た。約5年前、異業種から生産者に転じた林さんは「味は一緒なのに、見た目が悪いだけで出荷できないことに疑問があった」といい、岐阜信用金庫と連携し付加価値の高い加工品とすることを企画した。各務原市も支援する。

目標額は50万円以上。加工品はドレッシングやミートソース、炊き込みご飯「金魚飯」の素など。出資者には商品の詰め合わせを送るほか、生産者と交流しながら収穫を体験する収穫祭(11月)への参加権を用意。資金は加工費や収穫祭開催費に充てる予定だ。林さんは「各務原出身で、今は都会などで暮らす人の支援も集まるのが理想」と狙いを語る。

事業は、地元で盛んな航空宇宙産業にあやかり「ジェットニンジンプロジェクト」と名付けた。事業説明を受けた浅野健司市長は「ふるさと納税の返礼品にも加えたい」と支援を約束した。

出資は3千円から5万円の範囲で募る。詳細は各務原と美濃加茂、関の3市で運営するクラウドファンディングサイト「FAVO美濃國(ファボみのくに)」。

(舌間隆博)